

# 必要な外為取引機能を柔軟に追加 新サービス開始で顧客数が25%増に

## カスタマイズ対応に優れたNSSOLの「CrossMeetz」を採用

### 背景

以前の法人向け外為インターネットサービスのサービス基盤は他ベンダーによる共同利用型であり、八十二銀行独自のニーズを実現しにくかった。同行は顧客ニーズに迅速に対応するため、サービス基盤のリニューアルを決めた。



株式会社八十二銀行  
市場国際部  
市場国際企画グループ  
調査役  
竹松 珠里氏



株式会社八十二銀行  
システム部  
システム開発企画  
中澤 明洋氏

### ソリューション

新たなサービス基盤としてNSSOLの「CrossMeetz」を導入。既存の国内取引向け法人インターネットバンキングとのシングルサインオンによる統合、為替予約、送金取引の即時決済などの機能追加を短期間で実現した。

### 成果

新しい機能の提供や勘定系システムとの連携強化により、同行の外為インターネットサービスの利便性は大幅に向上した。また、関連業務の自動化とペーパーレス化も進み、営業店や本部の事務負担も軽減している。

### 旧来の共同利用型のシステムでは、やりたいことを実現しにくかった

八十二銀行は「健全経営を堅持し、もって地域社会の発展に寄与する」を経営理念とし、長野県のトップバンクとして地元経済と共に成長してきた。自己資本比率が高く邦銀有数の事業健全性を有し、外国為替の取扱高も地方銀行の中で上位に入る。

同行は2014年秋、法人向け外為インターネットサービスの更改を検討していた。長野県内には輸出企業が多く外為取引のニーズは高かったが、当時、八十二銀行が法人顧客に提供していた「八十二外為Webサービス」は多くの金融機関で共同利用するサービス基盤を利用していたため、その枠組みの中で同行の法人顧客の要望をタイムリーに実現することが難しかったからだ。また、メガバンクの外為インターネットサービスのほうが高い利便性を備え、八十二銀行のサービスとの機能差は広がる一方だった。

### カスタマイズ可能なCrossMeetzで外為インターネットサービスを強化

八十二銀行は、従来サービス基盤の契約終了を1年後に控えた2015年夏、新たなサービス基盤として、新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)の外為総合インターネットサービス「CrossMeetz(クロスミーツ)」の導入を決めた。共同利用型でありながら同行独自のカスタマイズが比較的短期間で可能な点や豊富な導入実績を評価した結果だ。

同行はリニューアルを2段階で行った。1次フェーズでは従来と同等の機能に為替予約機能を追加、国内取引向け法人インターネットバンキング(IB)とのシングルサインオン(SSO)によるサービス統合を実現し、2016年4月に新サービス「八十二外為ネットサービス」を稼働。続く2次フェーズでは、勘定系システムと連携した即時決済やリアルタイム相場での取引といった機能強化を進め、2018年2月に計画通り稼働させた。

### サービスを強化して顧客増を達成、事務処理負担も大幅に軽減

顧客ニーズに応える機能をCrossMeetz導入によるリニューアルで実現したことにより、外為インターネットサービスの顧客利便性を大幅に高めることができた。その結果、新サービス「八十二外為ネットサービス」の利用顧客数は25%以上も増えている。また、従来のサービスでは、受け付けた取引を本部や営業店の担当者が勘定系システムに入力したり、顧客と電話や文書でやり取りしたりする作業が多かったが、「八十二外為ネットサービス」では受け付けた取引に関する処理のほとんどを自動化し、ネット上で取引を完結できるようになったため、同行の事務負担は大幅に軽減した。

同行は今後、NSSOLの協力により「八十二外為ネットサービス」のさらなる高度化や、機能強化などに取り組む意向である。

## Key to Success

八十二銀行が何よりも望んでいたのは「システムの柔軟性」だった。

市場国際部調査役の竹松珠里氏は、「以前利用していた共同利用型のサービス基盤では、システムに変更を加えるには年1回のユーザー会で承認を得る必要がありました。しかし当行が強く要望する機能であっても、他の利用行とニーズが合わず、なかなか実現できませんでした。グローバル化を進めるお客様からスピーディーな外為取引を望む声が上がっていたにもかかわらず、対応できずにいたことが大きな課題でした」と当時の状況を説明する。

八十二銀行がシステム機能として実現したかったのは、インターネットで受け付けた取引の即時決済や自動化に加えて、既存の国内取引向け法人IBとのSSOなどだった。システム部の中澤明洋氏は、「国内取引の法人IBでは、ネット上で決済まで完了するのが普通です。ところが以前の外為のサービス基盤はシステム間連携機能が弱く、ネット上で取引の受け付けだけを行い、別途、本部や営業店の担当者が勘定系システムに打鍵して決済するような状況でした。さらに、サービスを利用する場合は、法人IBとは別のIDとパスワードを入力する必要があることに加え、証明書の導入や更新などセキュリティ面の運用も違うため、利用者にとって非常に煩雑な取り扱いになっていました。すぐにでも解決しなかったのですが、以前のシステムでは難しかった」と振り返る。

八十二銀行は、この対応の遅れを抜本的に解消したかった。「CrossMeetzを選んだ一番大きな理由は、共同利用型のサービス基盤でありながら、当行の要望に合わせて比較的柔軟にカスタマイズしてもらえることです。例えば、強く要望していたSSOに対し、『やります』と真っ先に言ってくれたのがNSSOLでした」と竹松氏は明かす。

プロジェクトは計画通りに完了し、送金取引等の外為取引の即時決済やSSO化などを実現した。NSSOLの対応について中澤氏は、「稼働時期を動かさない難しいプロジェクトでしたが、手戻りがないように要件検討の段階からNSSOLが詳細に内容を詰めてくれました。また勘定系システムとの連携では実装したい機能が非常に多かったのですが、スケジュールが許さざりぎりのところまで実現してくれました。NSSOLからは、私たちの目線でプロ

### 顧客増と事務負担軽減を達成 NSSOLがぎりぎりまで要望を実現

プロジェクトは計画通りに完了し、送金取引等の外為取引の即時決済やSSO化などを実現した。NSSOLの対応について中澤氏は、「稼働時期を動かさない難しいプロジェクトでしたが、手戻りがないように要件検討の段階からNSSOLが詳細に内容を詰めてくれました。また勘定系システムとの連携では実装したい機能が非常に多かったのですが、スケジュールが許さざりぎりのところまで実現してくれました。NSSOLからは、私たちの目線でプロ

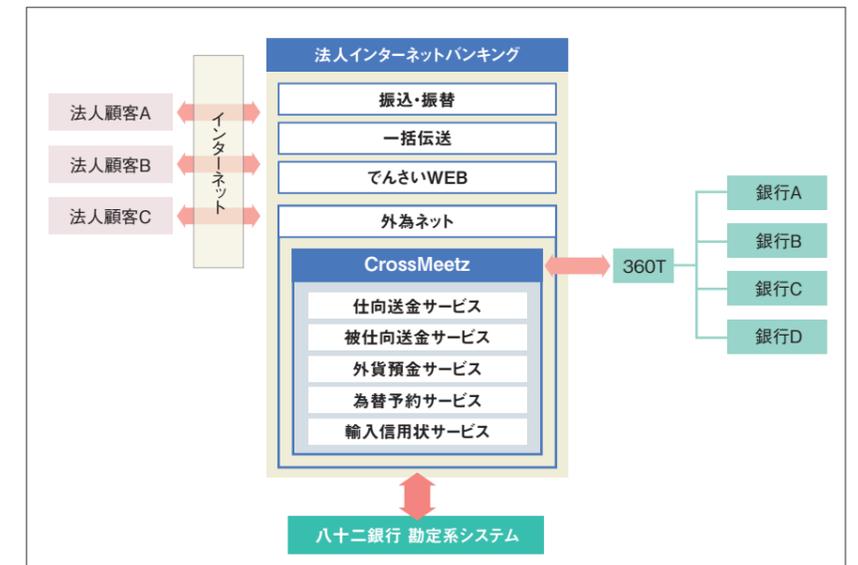
ジェクトを成功させようとする姿勢を感じました」と話す。

CrossMeetzによる成果は明らかだ。竹松氏は、「新サービスへリニューアルしてから外為ネットサービスの利用顧客数が25%以上も増えました。CrossMeetz導入前の4~5年間、顧客数がほとんど一定だったことを考えると、劇的とも思えるほどの変化です」

事務負担も大幅に減った。「従来の外為取引は、担当者による勘定系システムへの入力に加え、お客様との間で電話や文書のやり取りが非常に多かったのですが、それらがネット上で完結するため、特に月末・月初の事務負担がとても軽くなっています」(同)

中澤氏は今後もNSSOLに期待を寄せる。「NSSOLの良いところは親身になって相談に乗ってくれることです。アンチマネーロンダリング対策の強化などについても引き続き一緒に検討してほしい」と語る。

### ■八十二銀行が導入した外為総合インターネットサービス「CrossMeetz」の概要



■コアテクノロジー  
柔軟性の高いアーキテクチャー、金融に関する豊富な業務知識、360T (100以上の銀行が流動性を提供し、750以上のバイサイドの顧客が利用しているマルチバンク・ポータル)

■システム概要  
●アプリケーション：外為総合インターネットサービス「CrossMeetz」



株式会社八十二銀行  
本社：長野市大学中御所字岡田178番地8  
創立：1931年  
資本金：522億円 (2017年9月30日現在)  
預金残高：6兆5983億円 (2018年3月31日現在)  
貸出金残高：5兆876億円 (2018年3月31日現在)  
従業員数：3192名 (2018年3月31日現在)